

梅花藻

能村 研三

日蓮生誕八百年

ひとすぢの光となりて蛇泳ぐ

梅花藻を育む水に砂のきら

曲る度変はる山容青嶺濃し

根つからの数字嫌ひや草を刈る

扇子閉づ封印したる一意かな

コルク栓瓶に戻らぬ麦の秋

苦み鮎添ふは蓼酢のうすみどり

峨峨と峙つ青鋭峰が国頒つ

西日落つ片手返し中華鍋

白靴を汚さずに遭ふ敵手かな

先日、歌舞伎座で上演された芝居「日蓮」を見に行った。歌舞伎座は父が元氣な頃に一緒に連れて行ってもらってから久しく行くことがなかったが、新装なった歌舞伎座に初めて足を運んだ。

今回の「日蓮」は日蓮の生誕八百年を記念して上演されたもので、市川猿之助が演じて、比叡山で修行して人々の幸せをひたすら願ひ、連長が日蓮と名を改め立教改宗に向けて山を降りていくまでを描いている。理想に燃える日蓮を演じる猿之助の迫真の演技に引き込まれ、改めて日蓮の偉大さを実感した。

私の家の菩提寺の延壽寺は日蓮宗のお寺で、現在私が檀家総代を務めていることから、三年前に日蓮聖人生誕八百年の記念事業委員会を立ち上げ、様々な事業に取り組んだ。

日蓮は房州小湊で生まれたこともあり、私が中学生の頃に千葉県が生んだ偉人の足跡を調べようと、ゆかりの誕生寺や清澄山、さらに鎌倉のお寺を訪ねたことがある。

私の住む市川には、日蓮宗の荒行

の修行の寺である中山法華経寺があり、手児奈伝説で有名な真間山弘法寺があることも、日蓮聖人がより身近な存在として感じている。

真間山弘法寺では、二十数年前に管主であった酒井日慈さんから「人間学校」で俳句の指導をしてほしいとの依頼があり、教室を開講し約二十年間続いた。現在はお寺での「人間学校」は開催されなくなったが、折角、酒井日慈さんが、一宗教にとらわれないことなく多くの人に参加してもらいたいという気持ちがあったので、現在は山を降りても「人間学校」の名前を冠した俳句会が続いている。

また日蓮の終焉の地である総本山の池上本門寺では毎月定期的に発刊される「池上」という機関紙の俳句欄の選者を務めて、十数年が経った。この欄には、「沖」の人たちも多く投句を寄せていただいている。

私は決して日蓮宗の狂信的な信者ではないが、幼い頃から親しみのある日蓮に半生を通じて縁を戴いていることはありがたいことである。

能村 研三